リスクマネジメント

リスクマネジメントの推進

オリンパスグループは、経営理念、経営戦略等を含めた「経営の基本方針」を実現するためのリスクマネジメントの取り組みを実施しています。具体的には、「リスクマネジメントおよび危機対応方針」および関連規程に基づき、積極的かつ適切なリスクテイクによる企業の持続的成長や価値創出につなげる"攻め"と、不正や事故の防止という"守り"の両方の視点で、リスクマネジメントを行っています。また、予期せぬインシデントが発生した際にも企業価値への影響を最小限にとどめるために、危機管理プロセスを整備しています。

リスクマネジメント

リスクマネジメント体制においては、グローバルなリスクマネジメント体制を構築し、経営戦略ほか当社の事業目標の達成に影響を与え得るリスクの分類を定義し、各リスク分類を管掌する執行役を明確にしています（リスクアシュアランスの確立）。各執行役は管掌するリスク分類に付随するリスクを許容範囲に収めるために必要な各種活動（組織体制の整備、プロセスの整備、重点施策の策定·実行など）を遂行します。

2023年4月よりGRC（ガバナンス、リスク、コンプライアンス）に関する4つの機能（リスク&コントロール、コンプライアンス、プライバシー、情報セキュリティ）を統括する新組織を発足しました。機能間の連携を高めることで、執行機能におけるリスクマネジメント体制をさらに強化します。

また、リスクマネジメントのプロセスをリスクアセスメント（リスクの特定、分析、評価およびリスク対応策の設定）、リスク対応策の実行、モニタリングおよびレポーティング、改善のPDCAサイクルで運用しています。リスクアセスメントは、年度計画策定プロセスに連動させ、全社共通の評価基準を用いてリスクを評価し、全社のリスクを可視化、一元管理しています。また、グループの重要リスクについてはその対応状況を定期的にグループ経営執行会議、取締役会および監査委員会へ報告し、継続的にモニタリングしています。

危機管理

オリンパスグループでは、経営に影響を及ぼす可能性のあるインシデントは、速やかに社長他経営陣に報告し、責任者が関連部署と連携して適切に対応しています。

また、有事の発生を想定した年次訓練を通じて、その対応プロセスの確認と修正を継続しており、大規模な自然災害などが発生した際の被害を最小限に抑えるよう努めています。

BCP（事業継続計画）においては、バリューチェーンをより強く意識した実践的な計画の構築を目指しています。これを支えるために、「BCP／BCM整備ガイドライン」を策定するなど、常にBCPの改善に取り組んでいます。さらに、BCPの実効性を高める教育·訓練も継続的に実施しています。

これからも、従業員をはじめ、医療従事者や患者の皆さま、そしてコミュニティの健康と安全を最優先に考え、製品とサービスの供給を維持するために、最善の対策を講じ続けます。

リスクマネジメント体制（2023年3月期）

「経営の基本方針」を達成するためのリスクマネジメント

Plan
年度計画策定
方針、目標、重点施策の設定
リスクアセスメント
リスクの特定、分析、評価、対応策設定

Do
業務執行
重点施策の実施
リスク対応
業務執行を通じたリスク対応策の実施

PDCA

Act
振り返りと改善
方針、目標、重点施策の見直し
リスク認識、対応策の見直し
グループ経営執行会議、取締役会、監査委員会への報告を通じた見直し

Check
業務執行管理
業務執行に対する進捗管理
モニタリング・レポーティング
重要リスクのモニタリング、社内外環境認識更新、半期ごと報告

重要リスク

オリンパスグループでは、年度計画策定時にリスクアセスメントを実施し、経営戦略および事業目標の達成に大きな影響を及ぼす重要リスクを特定しています。全社視点で特に重要なリスクに対して、執行役をはじめとする経営陣が、当社経営に与える影響度および緊急度に基づいてプライオリティを検討し、以下のリスクマップに整理し、全社の共通認識にしています。各重要リスクの詳細は、当社Webサイトをご参照ください。

事業等のリスク　https://www.olympus.co.jp/ir/policy/risk.html

全社重要リスクマップ

影響度（縦軸：中→高）／緊急度（横軸：中→高）

C
- 経済環境
- 気候および環境を含むサステナビリティ
- 自然災害、感染症、戦争、内戦およびその他のリスク

A
- 医療行政、製品関連法規制強化および感染管理
- 市場・競合状況
- 開発活動
- サプライチェーン
- 業務提携、企業買収、事業売却および投資全般等
- 情報セキュリティ
- 人材

D
- 為替変動
- 資金調達
- コンプライアンス
- 訴訟
- 税務

B

全社重要リスク一覧

分類	リスク名	リスクの種類	影響度・緊急度	傾向
事業環境	医療行政、製品関連法規制強化および感染管理に関するリスク	機会と脅威	A	↑
	市場・競合状況に関するリスク	機会と脅威	A	↑
マーケット	経済環境に関するリスク	機会と脅威	C	↑
	為替変動に関するリスク	機会と脅威	D	↑
	資金調達に関するリスク	機会と脅威	D	→
事業活動	開発活動に関するリスク	機会と脅威	A	→
	サプライチェーンに関するリスク	機会と脅威	A	→
	業務提携、企業買収、事業売却および投資全般等に関するリスク	機会と脅威	A	→
経営全般	コンプライアンスに関するリスク	脅威	D	→
	訴訟に関するリスク	脅威	D	→
	情報セキュリティに関するリスク	脅威	A	↑
	人材に関するリスク	機会と脅威	A	↑
	税務に関するリスク	脅威	D	→
	気候および環境を含むサステナビリティに関するリスク	機会と脅威	C	→
	自然災害、感染症、戦争、内戦およびその他のリスク	脅威	C	↑

なお、オリンパスグループ全体に影響を及ぼす基本的な環境認識を以下のように捉え、全社および各組織でのリスク認識、対応策の検討を行っています。

直近の事業環境変化

Political 政治	地政学	米中貿易摩擦の激化による先端技術の輸出規制が当社グループの業績へ影響を及ぼす可能性。 戦争・紛争の影響を考慮した対応策（BCP策定等）の整備。
Economical 経済	マクロ経済	各国間の経済摩擦、経済制裁の発生、主要原材料の不足あるいは需給バランスの悪化などの複雑な要素に起因する世界的なインフレーション、金利の変動や急激な為替変動。
Social 社会	ステークホルダー	世界的かつ各地域でのステークホルダーからのサステナビリティの観点での要請の高まり、および情報開示の法制化の加速。
Technology 技術	新技術	ビジネスモデルや競合関係の多様化。DX、ロボティクスの加速、AI技術の急速な実用化、医療への適用検討、法規制への影響。